

### Ⅲ. 調査結果の要約



## 1 区の施策および評価について

---

### (1) 居住年数

【本文 47ページ】

練馬区に住んで何年になるか聞いたところ、「31年以上」（33.9%）と「21年～30年」（15.1%）を合わせた『長期居住者』（49.0%）が約5割となっている。また、「11年～20年」の『中長期居住者』（19.0%）が約2割、「6年～10年」の『中期居住者』（13.5%）が1割台前半、「1年～5年」（14.3%）と「1年未満」（3.5%）を合わせた『短期居住者』（17.9%）が2割近くとなっている。

### (2) 住みごころ

【本文 49ページ】

練馬区の住みごころを聞いたところ、「住みよい」（40.2%）が約4割、「まあ住みよい」（55.1%）が5割台半ばとなっており、この2つを合わせた『肯定的評価』（95.3%）が9割台半ばとなっている。一方、「あまり住みよくない」（2.7%）、「住みにくい」（0.8%）を合わせた『否定的評価』（3.5%）は1割を下回っている。

### (3) 練馬区が住みよいと感じるところ

【本文 54ページ】

練馬区が住みよいと感じるところを聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」（58.0%）が6割近くと最も多く、次いで「交通の便がよい」（50.9%）、「買い物がしやすい」（47.0%）、「治安が比較的よい」（46.3%）、「防災の面で比較的安心である」（17.6%）などの順となっている。

### (4) 練馬区が住みにくいと感じるところ

【本文 58ページ】

練馬区が住みにくいと感じるところを聞いたところ、「交通の便が悪い」（21.2%）が2割を超えて最も多く、次いで「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」（20.5%）、「働く場所があまりない」（16.8%）、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」（14.0%）、「生涯学習やスポーツの環境が整っていない」（13.7%）などの順となっている。

### (5) 定住意向

【本文 62ページ】

これからも引き続き練馬区に住みたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」（35.5%）と「当分は住み続けたい」（40.1%）を合わせた『定住意向』（75.6%）が7割台半ばとなっている。一方、「できれば区外へ移りたい」（3.6%）と「区外へ移りたい」（1.0%）を合わせた『転出意向』（4.6%）は1割を下回っている。

### (6) 練馬区への愛着

【本文 66ページ】

練馬区に愛着を感じるか聞いたところ、「愛着を感じる」（31.8%）と「どちらかという愛着を感じる」（45.0%）を合わせた、愛着を『感じる』（76.8%）が7割台半ばとなっている。一方、「どちらかという愛着を感じない」（4.8%）と「愛着を感じない」（3.1%）を合わせた、愛着を『感じない』（7.9%）は1割を下回っている。

### (7) 練馬区に対する誇り

【本文 70ページ】

練馬区に誇りを感じるか聞いたところ、「誇りを感じる」（11.8%）と「どちらかという誇りを感じる」（33.6%）を合わせた、誇りを『感じる』（45.3%）が4割台半ばとなっている。一方、「どちらかという誇りを感じない」（9.5%）と「誇りを感じない」（6.7%）を合わせた、誇りを『感じない』（16.2%）は1割台半ばとなっている。

## (8) 施策の満足度と必要性

【本文 75・77ページ】

満足度について『満足評価』と『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①みどりの保全と創出	(79.1%)	①交通安全対策	(54.4%)
②健康づくりの推進	(76.0%)	②区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(45.5%)
③循環型社会づくり	(73.9%)	③観光の推進	(43.6%)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(71.0%)	④駅周辺のまちづくり	(43.4%)
⑤子育て支援	(69.1%)	⑤鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	(39.1%)

必要性について『必要性が高い評価』と『必要性が低い評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。

『必要性が高い評価』上位5項目		『必要性が低い評価』上位5項目	
①医療環境の充実	(90.3%)	①観光の推進	(39.4%)
②交通安全対策	(87.5%)	②地域活動の活性化と多文化共生社会の実現	(37.8%)
③災害に強い安全なまちづくり	(86.9%)	③平和と人権の尊重、男女共同参画の推進	(31.8%)
④健康づくりの推進	(86.7%)	④文化・生涯学習・スポーツの振興	(31.6%)
⑤高齢者福祉	(86.2%)	⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(29.1%)

## (9) 施策への要望

【本文 86ページ】

特に力を入れてほしい施策を第1位から第3位まで挙げてもらった。その3つの累計をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(23.1%)が2割を超えて最も多く、次いで「交通安全対策」(19.9%)、「医療環境の充実」(18.5%)、「駅周辺のまちづくり」(16.8%)、「高齢者福祉」(16.7%)などの順となっている。

## (10) 区政情報の入手先

【本文 96ページ】

区政の情報を主に何から入手しているか聞いたところ、「ねりま区報」(60.7%)が約6割と最も多く、次いで「区ホームページ(携帯サイトを含む)」(52.1%)、「わたしの便利帳」(17.9%)、「区の施設・窓口にあるポスターやパンフレット」(16.1%)、「区役所に直接問合せ(電話を含む)」(8.1%)などの順となっている。

## (11) 『ねりま区報』の閲読度

【本文 98ページ】

『ねりま区報』をどの程度読んでいるか聞いたところ、「詳しく読んでいる」(8.4%)と「必要な記事は読んでいる」(42.7%)を合わせた『読んでいる』(51.1%)が5割を超えている。一方、「あまり読んでいない」(21.3%)と「まったく読んでいない」(26.2%)を合わせた『読んでいない』(47.5%)は5割近くとなっている。

### (11-1) 『ねりま区報』の満足度

【本文 101ページ】

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方（681人）に、『ねりま区報』にどの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」（6.3%）と「満足している」（74.4%）を合わせた『満足評価』（80.8%）が約8割となっている。一方、「あまり満足していない」（17.0%）と「満足していない」（0.9%）を合わせた『不満評価』（17.9%）は2割近くとなっている。

### (11-2) 『ねりま区報』の入手手段

【本文 104ページ】

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方（681人）に、『ねりま区報』の入手手段を聞いたところ、「新聞折り込みで入手している」（64.2%）が6割台半ばと最も多く、次いで「駅・コンビニエンスストア・区立施設などで入手している」（29.1%）が約3割、「パソコン・スマートフォンなどで閲覧している」（8.7%）が1割を下回っている。

### (11-3) 『ねりま区報』でよく閲覧している記事

【本文 106ページ】

『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方（681人）に、『ねりま区報』でよく閲覧している記事を聞いたところ、「「お知らせ」「講座・催し」「高齢者」「健康・衛生」「子ども・教育」などのお知らせ」（81.6%）が8割を超えて最も多く、次いで「1面の記事」（47.1%）、「医療関係機関のお知らせ記事」（37.6%）、「情報あらかると」（28.0%）などの順となっている。

### (11-4) 『ねりま区報』を読んでいる理由

【本文 108ページ】

『ねりま区報』を「あまり読んでいない」または「まったく読んでいない」と答えた方（633人）に、その理由を聞いたところ、「新聞を購読していない」（50.2%）が約5割と最も多く、次いで「入手方法がわからない」（32.5%）、「必要な記事がない」（19.0%）などの順となっている。

### (12) 『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）

【本文 110ページ】

『ねりま区報』に掲載・連載してほしい内容（企画）を聞いたところ、「区立施設の紹介」（47.5%）が5割近くと最も多く、次いで「区が推進している施策の詳しい紹介」（38.1%）、「区内の名所・公園の紹介」（34.4%）、「区民や地域で活動する団体の紹介」（20.9%）などの順となっている。

### (13) 『ねりま区報』の配布方法の意向

【本文 113ページ】

『ねりま区報』の配布方法の意向を聞いたところ、「今のままでよい」（68.2%）が7割近くとなっている。「全世帯に配布すべき」（14.6%）は1割台半ば、「配布施設をもっと増やすべき」、「送付サービスをもっと拡大すべき」（ともに6.7%）は1割を下回っている。

### (14) 『ねりま区報』の発行回数の意向

【本文 116ページ】

『ねりま区報』の発行回数の意向を聞いたところ、「今のままでよい（月3回）」（50.2%）が約5割となっている。一方、「月2回にすべき」（22.0%）、「月1回にすべき」（22.4%）はともに2割台前半となっている。

---

**(15) 『ねりま区報』の情報量の意向****【本文 119ページ】**

『ねりま区報』の情報量の意向を聞いたところ、「今のままでよい」（80.9%）が約8割と多くなっている。一方、「もっと増やすべき」（5.8%）、「もっと減らすべき」（7.9%）はともに1割を下回っている。

---

**(16) 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の認知度****【本文 122ページ】**

『練馬区情報番組ねりまほっとライン』を知っているか聞いたところ、「知っている」（29.3%）が約3割となっている。一方、「知らない」（68.2%）は7割近くとなっている。

---

**(16-1) 『練馬区情報番組ねりまほっとライン』の視聴度****【本文 124ページ】**

『練馬区情報番組ねりまほっとライン』を「知っている」と答えた方（390人）に、番組の視聴度を聞いたところ、「いつも（ほぼ毎回）見ている」（4.1%）と「興味のある内容のときだけ見ている」（41.5%）を合わせた『見ている』（45.6%）が4割台半ばとなっている。

---

**(17) 『区ホームページ』の閲覧状況****【本文 126ページ】**

『区ホームページ』の閲覧状況を聞いたところ、「よく見ている」（0.9%）と「必要に応じて見ている」（50.8%）を合わせた、『見ている』（51.7%）が5割を超えている。一方、「ほとんど見ていない」（37.3%）は4割近く、「見られる環境がない」（6.2%）は1割を下回っている。

---

**(17-1) 『区ホームページ』の閲覧情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度****【本文 128ページ】**

『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方（688人）に閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度を聞いたところ、「とても満足している」（2.8%）と「満足している」（58.3%）を合わせた、『満足評価』（61.0%）が6割を超えている。一方、「あまり満足していない」（32.6%）と「満足していない」（5.2%）を合わせた、『不満評価』（37.8%）は4割近くとなっている。

---

**(17-2) 『区ホームページ』の閲覧時に主に利用している機器****【本文 130ページ】**

『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方（688人）に閲覧時に主に利用している機器を聞いたところ、「スマートフォン（高性能携帯電話）」（49.1%）が約5割と最も多く、次いで「パソコン」（39.2%）が約4割、「携帯電話」（6.0%）、「タブレット」（3.5%）の順となっている。

---

**(18) 新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路****【本文 132ページ】**

新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手経路を聞いたところ、「TVやラジオの報道」（91.7%）が9割を超えて最も多く、次いで「インターネットのウェブサイト」（61.8%）、「新聞」（33.2%）、「家族や友人からの話」（27.9%）、「政府や東京都の広報」（24.4%）などの順となっている。

## (19) 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる程度

【本文 134ページ】

新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる程度を聞いたところ、「強く感じている」(38.6%)と「感じている」(40.5%)を合わせた『感じている』(79.1%)は約8割となっている。一方、「感じていない」(3.2%)は1割を下回っている。

### (19-1) 新型コロナウイルス感染症に対して不安を感じる場面

【本文 136ページ】

新型コロナウイルス感染症に対して不安を「強く感じている」「感じている」「少しは感じている」と答えた方(1,255人)に、不安を感じる場面を聞いたところ、「公共交通機関の利用」(74.1%)が7割台半ばと最も多く、次いで「繁華街などの人混み」(70.4%)、「会食」(50.8%)、「会合・イベント」(43.5%)などの順となっている。

## (20) 「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べての精神的・身体的な変化

【本文 138ページ】

「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べての精神的・身体的な変化を聞いたところ、「外で人と接触するのが怖くなった」(42.3%)が4割を超えて最も多く、次いで「常に不安を抱えるようになった」(28.1%)が3割近く、「イライラしたり、怒りっぽくなった」(9.4%)が約1割となっている。一方「特に変わったことはない」(33.3%)は3割台前半となっている。

## (21) 新型コロナウイルス感染症に対する対策

【本文 140ページ】

新型コロナウイルス感染症に対する対策を聞いたところ、「マスクの着用」(97.9%)が最も多く、次いで「手洗い・うがいの徹底」(90.6%)、「アルコール消毒液の活用」(85.1%)、「3密(密閉、密集、密接)の回避」(78.2%)、「咳エチケットの遵守」(68.5%)などの順となっている。

## (22) 「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べての日常生活の変化

【本文 142ページ】

「新型コロナウイルスによる影響が及ぶ前」と比べての日常生活の変化を聞いたところ、「旅行やレジャーを控えるようになった」(76.3%)が7割台半ばと最も多く、次いで「外食をする回数が減った」(75.1%)、「必ず手洗い・うがいをするようになった」(72.5%)、「公共交通機関の利用が減った」(49.8%)、「買い物に行く回数が減った」(43.9%)などの順となっている。

## (23) 自分が一番できている(一番できそうな)日常生活の新しい生活様式 【本文 145ページ】

国が示している「日常生活の各場面別の新しい生活様式」について自分が一番できているまたはできそうだと思うことを聞いたところ、買い物は「レジ前に並ぶ際、間隔を空ける」(39.9%)が約4割と最も多くなっている。娯楽・スポーツは「ウォーキングやジョギングは1人あるいは少人数で行う」(36.0%)が3割台半ばと最も多くなっている。食事は「テイクアウトやデリバリーを利用する」(32.3%)は3割台前半と最も多くなっている。公共交通機関は「利用したらなるべくすぐ手を洗う」(30.6%)が約3割と最も多くなっている。

